

見知らぬ誰かに「おごるぜ！」 店も客も支える優しさ

会員記事 新型コロナウイルス

細見卓司 2021年1月29日 10時00分



カフェ「葉菜茶」では、「おごるぜ! チケット」について掲示している=2021年1月22日午後0時33分、大阪市生野区桃谷1丁目、細見卓司撮影



では、食事代のおつりをチケットに充てることもできる。若者らは店でチケットをもらえば、無料で食事ができる。

桃谷商店街のピザ店「ピッツェリア・カサディエッロ」は真っ先に参加を申し出た。テイクアウトでチケットが使える。オーナーの塚本敬次さん(46)は「店内での飲食ではチケット利用を遠慮してしまう人もいるかも」と考えた。

「ピザは切って簡単にシェアできる。チケット利用者が家族や友人ら、ほかに困っている人にも分け与えられる」

JR桃谷駅近くのカフェ「葉菜茶(はなちゃ)」も参加した。店主の橋詰貴代子さん(56)は「コロナ禍で街が静まりかえっている中、幸せな気持ちが循環して笑顔が広がっていけばいい」と願う。

【大阪】コロナ禍で苦しむ飲食店と、生活に困っている若者らをとともに支援したい。そんな願いを両立させるため、大阪市生野区で「おごるぜ! チケット」という取り組みが始まった。少しずつ輪を広げ、息の長い支援にしていきたいことをめざす。

生野の活性化をめざす一般社団法人いくのもりが今年19日から始め、現在9店が参加している。仕組みはこうだ。

参加店で食事をした賛同者は、自分の分と別にもう1食分のお金を払う。チケットに「店名」「品名」「支援金額」「払った人の名前」を記入して店に置いていく。店によっ

いくのもりは昨年からさまざまな支援をしてきた。

最初の緊急事態宣言が出た昨年4月は、飲食店を支援する「かならずいくのチケット」を出した。1口3千円で購入すると、店に先払いでお金が届く。1カ月限定だったが、計56万円ほどが集まった。支援を受けた店主らからは「これで店の家賃が払えた」といった感謝の声が寄せられた。

5月は区内を中心にした企業31社から食品や物品の寄付を受け、子育て中の500世帯に無料配布した。チョコレートやレトルト食品、おもちゃ、化粧品などが集まり、大好評だった。

「おごるぜ！」は、これらの取り組みを融和させたものだ。代表理事の木村和弘さん(53)は「ほんまにしんどい思いをしている人はたくさんいることを痛感している」と話す。

木村さんが願うのは、困った時はお互いさまという「恩送り」の文化がまち全体に根付くことだ。

「チケット発行数を増やして、優しさをためていくことが一歩になる。そうすれば支援が必要な人がより気軽に使えるようになる。僕は生野の人たちの『恩送りの力』を信じています」

詳細は「いくのぐらし」 (<https://ikunogurashi.com/>)。 (細見卓司)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.